

捕獲北朝鮮資料文書について

和田春樹

(東京大学)

アメリカ軍が朝鮮戦争のさい北朝鮮において捕獲した書籍新聞文書はワシントン郊外メリーランド州ストランドにある The Washington National Record Center (WNRC) に保管され、1978年に機密解除され、公開された。現在は同じメリーランド州カレッジ・パークにできた National Archives 2 に移管され、そこで閲覧できる。

この文書は、資料群番号 242 (Record Group 242) の “National Archives Collection of Foreign Records Seized, 1941～” である。通称は “Captured Enemy Documents” である。Box 番号は 16/1130 から 16/2348 まで確認される。全部で約 1220 箱弱あることになる。各 Box の中に書籍、雑誌、新聞や文書ファイルが収められている。File 番号は SA2005 から SA2013 までに分かれ、それぞれの内部で通し番号が付けられている。資料の内容の英文目録が存在する。

研究者では、アメリカのブルース・カミングスがその 1981 年の記念碑的な著作 (Cumings, Bruce *The Origins of the Korean War: Liberation and the Emergence of Separate Regimes, 1945-1947*, Princeton University Press, 1981) で、この資料をはじめて使い、われわれを驚かせた。日本でも早い時期に山極晃が 1980 年に、桜井浩が 1983 年に、最初の紹介をおこなった。私はカミングスに教えられて、1982 年、83 年にこの資料を調査した。ワシントンでこの資料をもっとも綿密に調査した方善柱は 1986 年に翰林大学の『アジア文化』創刊号に「鹵獲北韓筆写文書解題 (1)」を発表した。この資料についてのもっともスタンダードな紹介である。

資料の内訳は、北朝鮮書籍と雑誌、新聞、そしてビラ、文書である。

まず、書籍では、北朝鮮で 1946-50 年に刊行された基本的な刊行物がそろっていることが貴重で

ある。金日成関係では、『金日成將軍述 民族大同団結について』(1946 年 3 月)、『金日成將軍 われわれの太陽』(1946 年 8 月)、『金日成將軍重要論文集 民主朝鮮自主独立の道』(1947 年 2 月)、金日成『朝鮮民主主義人民共和国樹立の道』(1947 年 11 月)、韓載徳『金日成將軍凱旋記』(増補版、1948 年) などがある。北朝鮮共産党、労働党、天道教青友党関係では、『党の政治路線及党事業終結と決定——党文献集 (一)』(1946 年 8 月)、『北朝鮮労働党創立大会会議録』(1946 年)、『北朝鮮労働党第 2 回全党大会会議録』(1948 年)、『北朝鮮天道教青友党第 2 次全党大会文献集』(1948 年)。人民委員会・人民会議関係では、『北朝鮮市郡人民委員会大会会議録』(1947 年)、『北朝鮮人民会議会議録』第 1 次～第 5 次 (1947～48 年)、『北朝鮮人民会議特別会議会議録』(1948 年)、『朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議会議録』第 1 次～第 4 次 (1948～49 年)。法令等関係では『北朝鮮法令集』(1947 年)、『法令公報』(1946～48 年)、『朝鮮民主主義人民共和国内閣公報』(1948～52 年)。

雑誌では労働党機関誌『勤労者』が 1946～47 年 (1～10 号)、1948 年 (1～12 号) とほとんどそろっており、貴重である。政府機関誌『人民』は、1946 年創刊号、1947 年 (1,3,4 号) 1948 年 (2～8 号) 1949 年 (9～12 号) 1950 年 (1～7 号) と欠落があるが、それでも重要である。この他に『北朝鮮通信』、『報道』、『歴史諸問題』、『産業』など、多くの雑誌がばらばらに収められている。

以上の書籍と雑誌の重要な部分は方善柱の努力によって、氏の個人企業「Amerasian Data Research Services」で複製され、頒布された。日本では東京大学社会科学研究所と慶応大学に全点が収められている。

注目されることは、この資料の中には 1945 年

の文献資料はまったくないことである。それは、1945年8月から12月までの解放直後の文献資料は、1950年の北朝鮮ではすでに完全に一掃されていたことを示している。

新聞は、『労働新聞』1950年1～3月、7～9月、1951年1～3月、と『民主朝鮮』1950年7～9月、ソウルで出された『解放日報』1950年7月～9月、『朝鮮人民軍』1950年7月～1951年2月などがある。完全なそろいではないが、ここでしか見られないものである。しかし、ここでも解放直後の1945～46年の新聞『正路』、1946年創刊初期の『労働新聞』などはまったくない。

文書は、きわめてばらばらなものである。つまり、北朝鮮の各機関は保管文書を完全に運び出すか、完全に破壊したのである。

もっともまとまっていて価値が高いのは、38度線近くの江原道麟蹄郡党、人民委員会、社会団体の資料である。1947年から1949年末までの資料がそろっており、北朝鮮農村の変化についての重要な資料である。すでにこの資料を使った研究が韓国で出ている。この他、黄海道平山人民裁判所の判決のファイル、民戦安州郡委員会関係資料(1946年)、北朝鮮共産党鎮南浦市委員会資料、1947年度金日成大学発令関係資料などは量は多くないが興味深い資料である。量がもっとも多いのは、1948年の黄海道の各学校教員の履歴書である。一人一人の自叙伝がついており、初期北朝鮮の末端知識人の経歴、学歴、政治歴などがわかる。

朝鮮戦争に先立つ時期については、軍の文書は相当あるが、1950年6月13日付けの第655軍部隊文化部の「絶対秘密」文書「戦時政治文化事業(参考材料)」は多くの研究者の論議的となった。カミングスは6月攻撃を証明するものでないとしたが、萩原遼と朴明林は「南進計画書」、「先制攻撃の核心証拠文書」とみた。和田春樹は「訓練演習用の教材」としている。6月25日の攻撃の命令とその履行に直接関わる資料は方善柱が発見して、1986年の解題に公表した7点しかない。

これら文書の復刻は韓国の国史編纂委員会の『北韓関係史料集』でもっとも多くなされている。これは方善柱が同委員会の委嘱により、捕獲北朝鮮資料文書のコピー作業をおこなった結果を編集

して印刷したものである。オリジナル資料のBox番号、File番号を明記していないことは、欠陥である。1982年12月に第1巻が出て、第4巻が1986年12月に出た。これが「朝鮮労働党資料」I～IVである。1989年7月刊の第7巻から毎年2冊ずつ出るようになった。1994年からは第17,18,19巻と毎年3巻ずつ出るようになった。長く非公開であったが、南北首脳会談がおこなわれた2000年から韓国政府北韓資料センターで自由に閲覧し、コピーができるようになった。捕獲文書以外に国史編纂委員会が入手した資料も収録されている。現在は2007年12月刊の第55巻までが刊行されている。

いまひとつ文書の復刻では、1980年代末からワシントンで調査をおこなった萩原遼が編集したコピー版のリプリント『北朝鮮の極秘文書』上中下(夏の書房、1995年)がある。萩原が著書『朝鮮戦争——金日成とマッカーサーの陰謀』(文藝春秋、1993年)で展開した北朝鮮の演習名目での38度線への進出、のちの敗走時の混乱などに関する資料が集められている。この萩原の編集した資料集を韓国の高麗書林が原編者に許可を求めることなく、『米・国立公文書所蔵北韓解放直後極秘資料(1945年8月～1951年6月)』全6巻として刊行した。こちらの方が多く図書館などで所蔵されている。しかし、高麗書林は萩原氏より告訴されており、裁判所が萩原氏の主張をみるとめれば、高麗書林版は公共的な図書館で閲覧することは不可能となる可能性がある。

なおRG242はアメリカ軍が北朝鮮で捕獲した資料のすべてではなく、別個に保管されていた重要な資料があることが方善柱氏の努力で明らかにされ、それらの文書資料が1990年代はじめdeclassifyされた。その全貌を私は確認していないが、その資料の中から、もっとも重要と考えられるものを方氏は翰林大学アジア文化研究所資料叢書の中で復刻出版した。1993年に出た『朝鮮共産党文件資料集(1945～46)』と1994年に出た『1946・1947・1948年度北韓経済統計資料集』である。ともにきわめて重要な資料である。

国立文書館第二館で資料を閲覧するには、ワシントン市内のNational Archivesの前からシャトル・バスが出ている。開館は月曜日から金曜日まで、午前9時からである。